

# 日本英学史学会 中国・四国支部

## ニューズレター

No.63

*Historical Society of English Studies in Japan, Chugoku-Shikoku Chapter*

### 英学史とジョン万次郎

松岡博信

米国マサチューセッツ州ニュー・ベッドフォードの捕鯨博物館には、捕鯨の発展に貢献した人物が紹介されているコーナーがある。展示されているパネルのうち、ある人物の写真の下の説明には Manjiro Nakahama という日本人の名前がある。

私とジョン万次郎との本当の出会いは、昭和 61 年から約 2 年間に渡って研究生として在籍した広島大学教育学部における松村幹男先生の英語教育史の授業である。当時は万次郎の名前こそ知ってはいたが、松村先生から、渡航の詳しい経緯、米国留学生第一号として英語や航海術などを学んだこと、世界中の海で捕鯨をし、約 10 年のアメリカ生活の後に、鎖国下の日本に帰国して幕末の激動期に通訳として開国に寄与した話などを聞き、大いに感動したのを覚えている。何よりもネイティブと同等であったであろう彼の英語力に憧れた。

時は移り、比治山女子短期大学（現在の比治山大学短期大学部）に赴任した後、寺田芳徳先生のお薦めで日本英学史学会広島支部（中国・四国支部の前身）の会員となつてからは、さらに詳しく彼の生涯を知ることになり、益々興味が湧いたものである。

3 年後、現在の勤務校である安田女子大学に赴任し、英語英米文学科の多田保行先生と田鍋薫先生の後を引き継ぐ形で教職科目「英語科教育法」を担当した。現代ビジネス学科に移籍してからもこの科目は担当し続け、15 回の授業のうち最初の 3 回を英語教育史の概説に充てている。毎年、私はこの授業の初回に、2005 年 11 月 9 日に NHK が放送した「その時歴史が動いた - 鎖国の扉を開けジョン万次郎・漂流民の挑戦」を DVD に落としたものを見せている。私自身が何度見ても感動するその内容は、学生にも極めて印象深いもののように、卒業生が話すのは「英語科教育法と言えばジョン万次郎ですね」という程であり、他の私の講義内容はほとんど忘れられている。完敗である。

昨年 5 月 7 日には、フェアヘブンの町役場で「ホイットフィールド・万次郎友好記念館」の開館式典が開かれた。ジョン万次郎の生き方に共感する聖路加国際病院の日野原重明理事長らが、万次郎を助けて米国における親となったホイットフィールド船長の家を募金を集めて買い取り、修復して記念館としてオープンしたのである。最近の NHK 大河ドラマにもジョン万次郎は重ねて登場し、彼の波乱万丈でロマン溢れる生涯は、160 年の時を越えて今もなお私たちの心を動かし続けている。

（副支部長 / 安田女子大学）

## 日本英学史学会 中国・四国支部 平成22年度総会

### 第1回(通算62回)研究例会 報告



日本英学史学会中国・四国支部 平成22年度総会、及び第1回(通算第62回)研究例会は以下の通り開催され、盛会裏に終了いたしました(参加者21名)。ご参加くださいました皆様、会場をご提供くださいました比治山大学関係者の皆様に、心より厚くお礼申し上げます。

#### プログラム

日時： 2010(平成22)年5月29日(土)

会場： 比治山大学(広島市東区牛田新町)6号館(国信教育館)6108講義室

#### 支部総会(13:20~13:50)

議長選出、平成21年度活動報告、平成21年度会計報告・会計監査報告、平成22年度活動計画

開会行事(14:00~14:10) 支部長挨拶 竹中 龍範(香川大学)

研究発表(14:10~15:10) 司会： 鉄森 令子(広島県立高陽高等学校)

「哈爾濱学院入学試験英語問題の特徴」

田中 正道(兵庫教育大学名誉教授・広島大学名誉教授)

研究発表(15:20~16:20) 司会： 隈 慶秀(福岡県立明善高等学校)

「広島英語教育協会の設立と活動：昭和戦前期英語教育史研究」

松村 幹男(広島大学名誉教授)

#### 資料展観(16:20~16:50)

「比治山大学所蔵英学史関係資料ほか」

閉会行事(16:50~17:00) 副支部長挨拶 松岡博信(安田女子大学)

懇親会(18:00~20:00) 四季や(広島市中区堀川町1-15 ざくろビル5階 TEL082-236-7200)にて

研究発表

「哈爾濱学院入学試験英語問題の特徴」

田中正道 (兵庫教育大学名誉教授・広島大学名誉教授)



【概要】大正9年(1920)「日露間の貿易を担い満蒙の地で活躍する有為の人材養成を目指す」目的で哈爾濱に設立された日露協会学校(のち哈爾濱学院と校名変更)は日本の敗戦と同時にわずか25年で幕を閉じた。

本発表では同学院の入学試験英語問題(昭和7年~昭和15年)の特徴を浮き彫りにしようとした。試験時間は年度により異なるが2時間30分~3時間、出題形式は旧制高校のスタイル、すなわち、英文和訳と和文英訳の2本立てとなっていること、出題内容は時局を強く反映した題材が用いられていること、さらにはロシア(人)が特に意識されていること等を指摘した。

今後、細部にわたり一層の調査・研究の必要があることを告げ、フロアーからのお力添え、ご教示をお願いした。

【参加者の感想】

このような外地の学校で現在その後継校のない場合にはどうしても資料の制約が厳しくなりますので調査も大変かと思えます。哈爾濱学院でも入学後はロシア語一辺倒に(英語は第二外国語の一に過ぎない)なる訳ですが、英語による入試の結果が例えばクラス分け等に利用される、或いは外国語一般への適性テスト的に使われるというようなことはあったのでしょうか。気になるところです。<Dragon>

短命に終わった哈爾濱学院の沿革・学課課程・英語の入試問題等についての貴重な情報をありがとうございました。卒業生の就職先やその活躍ぶりについても紹介していただければと思いました。

和文英訳のManchuriaとManchoukuoの件ですが、「註」をよく見ますと、満州(Manchuria)、満州国(Manchoukuo)と区別して使っているようです。ご参考までに。<Emma>

学院という漢字が読めませんでした。遠く離れた満洲で戦前に僅か百余名の学生がロシア語を一生懸命学習していた様子を伺うと、当時の学生の崇高な学問に対する姿勢を想像することができました。<マッピー>

最近相次いで presentation を意欲的に続けられている田中先生の研究姿勢に感銘を受けた。ハルビン学院の英語問題を分析しながら、大正から昭和20年までの日本で開校されていた同様の学校の様子を探る、すばらしい試みである。「満洲」の英語 Manchuria、Manchoukuo も興味深い。

<K. F.>

優秀な卒業生の皆さんの卒業後の進路はどんなものだったのでしょうか。<H. Nakamura>

「哈爾濱」これが読めませんでした。電子辞書のお世話になりました。お恥ずかしい限りです。昭和26年生まれですが、もっと若い方には絶対無理ではないか、私も含めてお助けください。読めそうにないと思われるものにはルビをうっていただけると助かります。<邑斎>

貴重な資料とともにハルビン学院のこと、さらなる関心を持ちました。<Kshu>

当時の学生の英語のレベルに感心しました。

<中外俊宏>

「哈爾濱学院」初めて聞くこの学院の存在に、この学院にはどのような学生たちがどのような目的で入学し学んだのか、ということに大変興味を持ちました。高度な入試問題を突破し、厳寒の異国の地で必死に学んだであろう学生たちの志を思うとき、そしてその歴史がわずか25年で幕を閉じたという、この貴重かつ稀少な学院の存在を教えて下さったことに感謝しています。<Rainbow>

分析表に示された出題傾向を拝見し、特に和文英訳において学校所在地の状況を反映した設問が出されていることに興味を持ちました。受験の時点から、外地における学校生活への心構えを説いていたのでは、と思わせる出題のように感じました。

<Horse>

中国・四国支部御中

貴支部平成22年度第1回(通算62回)研究例会開催を祝し、ご盛会をお祈りいたします。

平成22年5月28日

日本英学史学会会長 庭野吉弘

大会前日、本部事務局より上記の祝メールをいただきました。ご披露申し上げるのが遅くなり、事後報告となりましたことをお詫び申し上げます。(事務局)



研究発表

「広島英語教育協会の設立と活動：  
昭和戦前期英語教育史研究」

松村幹男 (広島大学名誉教授)

10) 年度 総会 第1回 (通算 62)



【概要】「広島英語教育協会」(昭和10~18年)は大学・高師・附属中学三者で組織された「広島英語教育研究所」(昭和8年開設)との緊密な連携のもとで活動を展開した点に特色がある。高等女学校の英語授業廃止の動きもある時期であった。広島市内の大学・高専、中等学校25校、112名を会員(発足当時)とし広島文理科大学小日向定次郎を会長とする英語教育研究会の組織であった。戦後の広島県英語教員連盟(昭和22年発足)などの系譜の中で広島英語教育昭和10年史にアプローチする。

【参加者の感想】

広島の英語教育史を一つ一つ掘り起こして行かれる御研究の一環として新しい調査結果を伺いました。恐らくこの時代を全国的に見た場合には数少ない組織の例だと思いますので、その辺りからの評価もしていただければと思います。<Dragon>

10年足らずで消滅した広島英語教育協会の発足の経緯やその存在意義等についての詳細な調査結果を興味深く拝聴いたしました。また、英語教育史研究の充実のためには、地域の実態史の解明が必要であるとの重要なご提言にも大変共感いたしました。

<Emma>

田中先生のハルピン学院に関する発表と対称的に地元の広島における戦前から戦中にかけての「英語教育廃止論」に抵抗する英語教師たちの教育に対する気構えを窺い知ることができました。

<マッピー>

戦前の広島県の英語教育がよく理解できました。そして、平成の今につながっていることもわかりました。ありがとうございました。<邑斎>

地域研究の大切さと昭和戦前期の資料の読み方も参考になりました。<Kshu>

戦前昭和10年代に誕生した「広島英語教育協会」に就いて、色々と活動内容の説明を受けた。時局へ対応する為、教師の側から設立された面を特に注目すべき点として、理解できた。

大きな流れからは注目度が低いかも知れないが、「地域の英語教育実態史」を地域からの掘り起こしの一環として検討することは意義がある。教師の側の必死の努力が窺える。<K. F.>

昭和10年~同18年、日本が強度の「視野狭窄」に陥っていた時期、「広島英語教育協会」が組織されていたことを初めて知り感動しました。同じ時期、海軍兵学校校長井上成美が偏狭な外国語排斥の動きに強く反対し、外国語の大切さを説いたことは周知の事実、こうした動き、メッセージが広島から発信されたことを広島人として誇らしく思います。

<もみじまんじゅう>

鬼畜米英の言語を敗戦を境にあの頃の英語教師はどういう思いで生徒に教えたのでしょうか。

<H. Nakamura>

現在所属している研究会の流れが大変よくわかりました。<中舛俊宏>

「今、この地域でしかできない研究」これからの英学史研究の方法を自ら実践され、私達に研究の方向性を示して下さいました。特に広島県に関する英語教育史年表はとても稀少価値があると思います。先人達が築いてくださった広島の英学を絶やさないために何をすべきか。自分の出来る努力はしていきたいと思います。<Rainbow>

日ごろ英語教育の改善へ向け、仲間と情報を交換し、共に研鑽を積むことの重要性を痛感しているところですが、広島の地で行われた組織的な取り組みの歴史を伺い、大変感銘を受けました。学会などの研究組織がどのような志で生まれ、育っていったかということに思いを馳せることで、会に参加するときの私の心構えを見直すきっかけを与えて頂いたような思いがします。ありがとうございました。

<Horse>



## 資料展観および例会全体の感想

快適な会場で、ミニ資料展まで御準備いただき、研究発表とともに実り多い例会でした。

<Dragon>

本年度の第1回例会も充実した会になり、うれしく思っております。清潔で気持ちのよい会場を用意して下さった能登原祥之先生に心より感謝申し上げます。

もう一つ位研究発表があってもよいのではあるまいか(依頼を強化!) <K. F.>

素晴らしい会場、きめ細かな心配りがなされた運営、関係者の皆さん本当にありがとうございました! <もみじまんじゅう>

いつもあれこれ考えさせられます。

<H. Nakamura>

英学資料は非常に興味あるものでした。特にP.A. Smithの資料は。 <Kshu>

様々な示唆を与えてくれる有意義な会でした。自分が研究したいと思っていること(広島女学院大の創始者の一人、高屋町出身 木原氏)の示唆を頂きました。運営をされた先生方、ありがとうございました。 <中舛俊宏>

## 比治山大学蔵英学史関係資料

### 学会誌

- ・「日本英学史研究会研究報告」69(1964)～109(1970)
- ・『英学史研究』1(1969)～42(2009)
- ・『日本英語教育史研究』1(1986)～15(2000)

### マイクロフィルム

- ・「初期日本英学資料集成」全34リール(雄松堂フィルム出版, 1976)

### 復刻版 雑誌・教科書・辞書・研究書等

- ・『英語英文学論叢』全2巻(名著普及会, 1986)
  - \* 広島文理科大学内英語英文学論叢編集室, 1931-1936
- ・『英語教育雑誌目次総覧』1～4, 著者名索引(大空社, 1992-1993) \* 英語教授、英語教育、英語教育ジャーナルなどの目次
- ・『英語教科書名著選集』全30巻(大空社, 1992-93)
  - \* *National Readers*, 正則文部省英語読本, *Let's Learn English* など
- ・『英語教授』(名著普及会, 1985) 1906-1917
  - \* 創刊時の編集は広島高師のP.A. Smith
- ・『英語青年』全100巻(研究社, 1978～79)
- ・『英語青年総索引』(1999)
  - \* 1898 ジャパンタイムズ社, 1901 英語青年社, 1944 研究社, 2009 ウェブ版(155巻～)
- ・『英語の研究と教授』全6巻(本の友社, 1994)
  - \* 1932-1947 東京文理科大学英語教育研究会
- ・『英語の日本』全11巻(本の友社, 1998)
  - \* 1908-1917 斎藤秀三郎ほか正則英語学校関係者による執筆・編纂
- ・『英米文学・英語学雑誌目次総覧』1～3, 著者名索引(大空社, 1994) \* 英文学研究、へるんなどの目次

- ・「近代日本英学資料」全9巻(ゆまに書房, 1995)
  - \* 『英華字彙』(1869), 『ウェブスター氏新刊大辞書訳字彙』(1888)など
- ・『近代日本英語・英米文学書誌』全7巻(ゆまに書房)
  - \* 「新しく英語教師たらんとするA君へ」(1937), 『英語教授法書誌』(1938) など
- ・『正則英語学校講義録』全6巻(名著普及会, 1991)
  - \* 中学1年級(1919) - 中学5年級(1920), 受験科
- ・「20世紀日本英語学セレクション」全9巻(ゆまに書房, 2001) \* 『英文法研究』(1912), 『英文直読直解法』(1915)など
- ・『パーマー選集』全10巻(本の友社, 1995)
- ・*The Bulletin of the Institute for Research in English Teaching* 全7巻(名著普及会, 1985)
  - \* 英語教授研究所 1923-1941

### 資料集ほか

- ・『英語教育史資料』全5巻(大村喜吉ほか, 東京法令出版, 1980)
- ・『日本の英学100年』全4巻(日本の英学100年編集部, 研究社, 1968-1969)
- ・「資料日本英学史」全3巻(川澄哲夫, 大修館書店)
  - 『英語教育論争史』(1978), 『英学ことはじめ』(1988), 『文明開化と英学』(1998)
- ・『英語教授法書誌』(赤祖父茂徳, 英語教授研究所, 1938)

英学史・英語教育史研究の基本図書が復刻版を中心に揃っています。例会では上記の一部のほか、P.A. Smith, *Notes on practical phonetics*. (Hiroshima Normal College) 『スミス先生の思い出』(玉川学園出版部, 1954) 『英語教育』1-10(広島文理科大学英語英文学研究室, 1936～1937) など、広島の英学にゆかりの書(個人蔵)も展示しました。比治山大学図書館、ならびに能登原祥之先生に感謝いたします。(事務局)

## 英学史情報ひろば

### 「ラフカディオ・ハーンと今日性 - 来日 120 周年を迎えて」に参加して

ラフカディオ・ハーン来日 120 年という年を記念して、広島市まちづくり市民交流プラザを会場に、比治山大学市民講座が行われた。

第 1 回 (6 月 5 日)「ラフカディオ・ハーンとクレオパトラ」

貝嶋 崇 (比治山大学)

第 2 回 (6 月 12 日)「ラフカディオ・ハーンの今日性」

小泉 凡 (島根県立大学)

第 3 回 (6 月 19 日)「ハーンと広島」

風呂 肇 (ラフカディオ・ハーンの会主宰)

第 4 回 (6 月 26 日)「ハーンと俳句」

日野 雅之 (八雲会会長代行)

第 5 回 (7 月 3 日)「ハーンと昆虫」風呂 肇

第 6 回 (7 月 10 日)「ハーンとアイルランド」風呂 肇

貝嶋先生は、ゲーテの『クレオパトラの一夜』を英訳したハーン作品を通してハーンの文学観を論じられた。フランス語も堪能であったハーンの意外な一面を知りその魅力を感じた。

小泉先生は、防災、共生、教育、五感力、文化資源、という 5 つのテーマを軸にさまざまな活動の実践をご紹介くださった。そしてギリシャ訪問時における母ローザを縁に多くの方との出会い等をさまざまな角度から話された。ハーン大切にしている五感力を、現代の子供たちに養成しようと松江にて、こども塾「スーパーへるんさん講座」を行われていること。松江での怪談を活用すべく「松江ゴーストツアー」を実地するために「語り部」の育成にあたられていること。この「語り部」の資格 ハーン、松江、口承文芸、語り方、もてなしの心を備えていること。これに、本物を追求し続けたハーンの子孫である小泉凡先生の素晴らしさを感じた。

日野先生は、ハーンの弟子で俳人である大谷正信について話された(先生は、ご著書『松江の俳人 大谷繞石』で第 24 回俳人協会評論賞を受賞されている)。旧制広島高等学校で教鞭を取った大谷正信の句碑は、中央公園の「広高の森」にある。広島にゆかりのある大谷の話、一層興味深く拝聴した。



風呂 肇氏「ハーンと広島」(6月19日)

風呂先生は、「ハーンと広島」において、なぜ広島でハーンを学ぶのか、その意義、そして、「ラフカディオ・ハーンの会」設立のいきさつの想いを熱く話された。「ハーンと昆虫」では、いつも弱者や小さきものへ向けられたハーンの眼差しについて「草雲雀」の作品を通して話された。「ハーンとアイルランド」- 幼少期を過ごしハーンに大きな影響を与えたであろうアイルランドについて、映像、音楽(ジョンレノン作「Mother」)、語り(上原まり「向日葵」)等、様々な技法を使っただけの充実したプレゼンテーションであった。講座の最後に、風呂 肇先生は『評伝ラフカディオ・ハーン』(遠田勝訳)を引用され「その 54 年の生涯は、不幸の連続だった。しかし彼は道を切り開き、正直さを守り抜いた。(中略)最後には踏み止まり、自分の人生を一つの意味ある模様に織り上げた。」と締めくくられた。

最終日には比治山大学より 5 回以上出席の受講生に対して「終了証書」が発行された。受講前はすべて参加することは無理だとあきらめ、毎回、へとへとなりながら会場に駆けつけていたが、ハーンの話に耳を傾けていると疲れは吹っ飛び元気が湧いてきたから不思議である。そして気がついてみると「皆勤賞」をいただいていた。

2000 年 7 月、「ラフカディオ・ハーンの会」設立時から毎月の例会に参加させていただいているが、ハーンは学べば学ぶほどいろんな魅力を発見ができ、世界が大きく広がってくる。今回は連続 6 回、日程的には少々厳しかったが、ぜいたくなくらいハーンの世界を満喫できるとも満足であった。(ラフカディオ・ハーンの会は、毎月第 1 土曜日 14 時~16 時 比治山大学にて、<http://home.att.ne.jp/sea/reiko/hearn.htm>)

10 月にはハーン来日 120 周年を記念して松江にてイベントが企画されている(2010 年 10 月 9 日~10 日「ハーンの神在月 全国・小泉八雲の会&ミュージアムの未来を考えるサミット」松江市総合文化センターにて。<http://yakumokai.org/2067>)。この意義あるイベントにはぜひ参加したいと願っている。

(鉄森 令子 記)



**徳山英学会**

2003年4月20日徳山英学会は誕生した。と同時にその日は徳山市(翌日から周南市)最後の日となった。世話人の河口昭先生は、浅田栄次研究の第一人者である。事務局担当は保坂である。発足から7年余りで23回例会を行っている。最初は浅田栄次が渡米する時に書いた臨別書を読んだり、留学の足跡をたどったりした。会のテーマの多くは徳山を中心とした英学ではあるが、時には会員の専門を生かした内容(小学校英語について、ペリー研究など)で議論することもある。22回例会では、吉田松陰ペリー暗殺説を扱った。

参加者は10人程度。マスコミ関係者、塾の講師、図書館の司書、主婦など多彩である。学者中心の学会とは違ったユニークな発想で議論できるところ、アットホームな雰囲気が魅力である。開催は年3,4回不定期。(保坂 芳男 記)

**岡山英学会**

能登原昭夫先生をはじめとする支部会員の先生方(齊藤泰成先生、中村浩路先生、山田宗八先生、池本康彦先生、高見彰先生)ならびに地元の平野二郎先生、三宅康久先生をメンバーに、「岡山英学会」が発足しました。今後、「岡山の英学」についてご研究を進められる予定とのことです。

**『イタリアのおもかげ』**

ディケンズ著、伊藤弘之・下笠徳次・隈元貞広 訳、岩波文庫、2010年4月、本体940円。

**日本英語教育史学会第231回研究例会**

日時： 2010年(平成22)年9月19日(日)  
午後2時~5時

会場： 県立広島大学広島キャンパス  
(広島市南区宇品東一丁目1番71号)  
教育研究棟1・1階 1175 講義室

参加費： 無料

研究発表： 関西学院の英語教育史 草創期から開学二十年頃まで  
上西幸治(摂南大学)

研究発表： 昭和24年の英語科教員再教育講習会について  
Virginia Geiger 女史の影響  
隈 慶秀(福岡県立明善高等学校)

(日本英語教育史学会ウェブサイト <http://hiset.jp> より)

**中国・四国支部ニューズ****平成22年度第1回理事会**

5月29日(土)の支部総会に先立ち、午前11時より理事会を開催しました(出席者8名)。前年度活動報告、会計報告・会計監査報告、今年度の活動計画について審議を行いました。(詳細は以下の総会報告を参照)

**平成22年度支部総会**

5月29日(土)13時20分より、議長として河村和也会員を選出し、今年度の支部総会を行いました。

**平成21年度活動報告**

事務局より昨年度の活動について報告。内容は、(1)支部総会、(2)第1回研究例会(広島)、(3)第2回研究例会(高梁)、(4)『英学史論叢』第12号の発行、(5)『ニューズレター』No.58~No.61の発行、(6)理事会の開催(第1回、第2回)、の6項目です。詳細は『英学史論叢』第13号(pp.77-80)をご覧ください。

**平成21年度会計報告**

[収入]	
繰越金	76,646
年会費	141,000
紀要掲載料	11,000
紀要売上	1,000
補助金	15,000
預金利子	6
収入合計	244,652 円
[支出]	
通信費	26,750
紀要印刷費	56,280
会場使用料	11,650
講師謝礼	20,000
会議費	4,702
事務用品	3,930
雑費	2,278
支出合計	125,590 円
[次年度繰越金]	119,062 円

以上、ご報告申し上げます。

平成22年5月8日 会計 馬本 勉<sup>印</sup>

## 平成 21 年度会計監査報告

本学会の会計を、収入並びに支出に関して、それぞれ関係書類、及び領収書等により監査いたしました。その結果、全て適正、正確に会計処理ができていたことを確認いたしました。

以上報告いたします。

平成 22 年 5 月 23 日 会計監査 山本勇三<sup>印</sup>  
鉄森令子<sup>印</sup>

## 今年度の活動計画

### 1) 研究例会

- ・第 1 回 平成 22 年 5 月 29 日 (土)  
(予定通り終了)

広島市・比治山大学にて

例会当日、理事会および支部総会を開催

- ・第 2 回 平成 22 年 12 月 11 日 (土)  
香川県高松市・香川大学教育学部にて  
例会当日、理事会を開催予定

### 2) 支部研究紀要

『英学史論叢』第 13 号 (予定通り発行)

### 3) ニューズレター

- No.62 (平成 22 年 4 月) (発行済み)
- No.63 (平成 22 年 7 月) (本号)
- No.64 (平成 22 年 10 月)
- No.65 (平成 23 年 1 月)

## >> 事務局より

### 年会費納入のお礼とお願い

すでに多数の会員の皆様より今年度の会費 (一般 3,000 円、学生 2,000 円) をご納入頂いております。ご協力に感謝申し上げます。これからお振込みの方は下記口座までよろしくお願いたします。

(口座番号) 01360-9-43877  
(加入者名称) 日本英学史学会 中国・四国支部

### 研究発表の募集

今年度第 2 回研究例会は、12 月 11 日 (土)、香川大学教育学部 (高松市) を会場に開催を予定しています。研究発表 (口頭発表 40 分・質疑応答 20 分・計 60 分程度) をご希望の方は、9 月末日までに事務局へご連絡ください。その際、(1)発表タイトル、(2)発表概要 (150 字程度)、(3)使用予定機器をお知らせください。

なお、研究発表のお申込は随時受け付けていますので、次年度以降を含め、ご希望の方は事務局までお知らせください。

### 紀要の配布・販売について

研究紀要『英学史論叢』は、会員の方へ一部ずつ、投稿者には所定の部数をお渡ししています。さらに追加でご希望の方には、一部 1,000 円 (非会員 1,500 円) にて販売いたします (郵送料込)。バックナンバーのタイトルは、『英学史論叢』第 10 号もしくはウェブサイトにてご確認ください。購入の申し込みは事務局まで。

### 会員異動 (敬称略)

退会 次重 寛禧

## 英学史学会全国ニュース

前号でお知らせしました通り、日本英学史学会第 47 回全国大会は、10 月 23 日 (土) ~25 日 (月)、京都大学吉田キャンパスで開催されます。詳しくは、(日本英学史学会) 本部事務局までお問い合わせください。(学会ホームページは次の通りです。)

<http://www.tokyo-kasei.ac.jp/~shinoda/eigakushi/>

日本英学史学会 (本部) の会員登録には、中国・四国支部とは別に手続きが必要です (入会金 2,000 円、年会費 5,000 円)。詳しくは事務局までお問い合わせください。

広島英学史の周辺(29) 梅雨明け前に襲ってきた豪雨災害。皆様のお近くで被害がなかったことを祈ります。今号の「英学史情報ひろば」では、支部会員が中心となって各地で続けられている研究会活動、出版情報、関連学会のイベントを紹介しました。引き続き情報提供をお願いいたします。

豪雨に続く猛暑でも多くの被害者が出ました。どうか皆様、くれぐれもお体には十分お気をつけください。(馬)

日本英学史学会 中国・四国支部ニューズレター No.63

2010 年 8 月 2 日発行

発行 日本英学史学会中国・四国支部 (代表 竹中龍範)

事務局 〒727-0023 広島県庄原市七塚町 562

県立広島大学 馬本研究室内

電話&FAX: (0824) 74 - 1725 (直通)

e-mail: eigaku@tom.edisc.jp

ホームページ <http://tom.edisc.jp/eigaku/>

郵便振替口座 01360-9-43877 日本英学史学会中国・四国支部

Newsletter No.63